

通し番号	5216
------	------

分類番号	R05-9C-31-03
------	--------------

近年の相模湾におけるマイワシ漁獲動向の変化	
[要約]全国のマイワシ資源量は2010年から増加傾向にあり、本県においても近年のマイワシ漁獲量は増加してきている。ところが、漁獲量を月別にみると、1～5月は増加した一方、6～12月は減少した。増加要因として、資源量が回復してきているほか、黒潮大蛇行によって産卵親魚が伊豆諸島海域に来遊するようになり、相模湾にも来遊する機会が増えたことが考えられた。減少要因として、稚仔魚の相模湾への来遊量が減少したことが考えられた。本県のマイワシ漁獲量は、資源量の増加により増加傾向にありかつ大型魚も増加していることから、定置漁業者の水揚げに貢献していることが伺われた。	
神奈川県水産技術センター・企画研究部	連絡先 046-882-2314

[背景・ねらい]

本県沿岸におけるマイワシ漁獲量は、県の総漁獲量に対し大きい割合を占めており、本種の漁獲動向を明らかにすることは漁業者の効率的な操業に資する。そこで近年の漁獲動向を分析し、漁獲量が変動する要因について検討した。

[成果の内容・特徴]

- 1 全国のマイワシ漁獲量は2010年から増加傾向にあり、本県においても近年は漁獲量が増加している（図1）。
- 2 2017年8月以降継続している黒潮大蛇行に着目し、2013～2017年と2019～2023年の月別漁獲量を比較した（産卵量が特異的に多かった2018年は除いている）。その結果、2019年以降は1～5月の漁獲量は増加したが、6～12月の漁獲量は減少した（図2）。本種は春季に関東海域へ来遊・産卵し、夏季以降にその年生まれの0歳魚が漁獲されるようになることから、1～5月は産卵親魚の漁獲量が増加、6～12月は0歳魚の漁獲量が減少したと考えられる。
- 3 産卵親魚の漁獲量が増加したのは資源量が増加したほか、2017年以降継続している黒潮大蛇行によって産卵場が従来よりも北側の伊豆諸島海域に形成されるようになり、相模湾にも来遊しやすくなったからと考えられる。
- 4 黒潮周辺でふ化した稚仔魚が沿岸域への流れにとりこまれて相模湾へ来遊したものがマシラス（マイワシのシラス）として春季に漁獲され、初夏以降に0歳魚として漁獲される。そのため、0歳魚の漁獲量が減少したのは、相模湾への稚仔魚の来遊量が減少したからと考えられる（図3）。

[成果の活用面・留意点]

- 1 黒潮大蛇行が継続する間は1～5月にかけて産卵親魚の好漁が期待できる。
- 2 資源量は増えている一方でマシラス来遊量が減少していることの要因として、黒潮大蛇行に伴う海流変化や水温上昇との関連が考えられる。

[具体的データ]

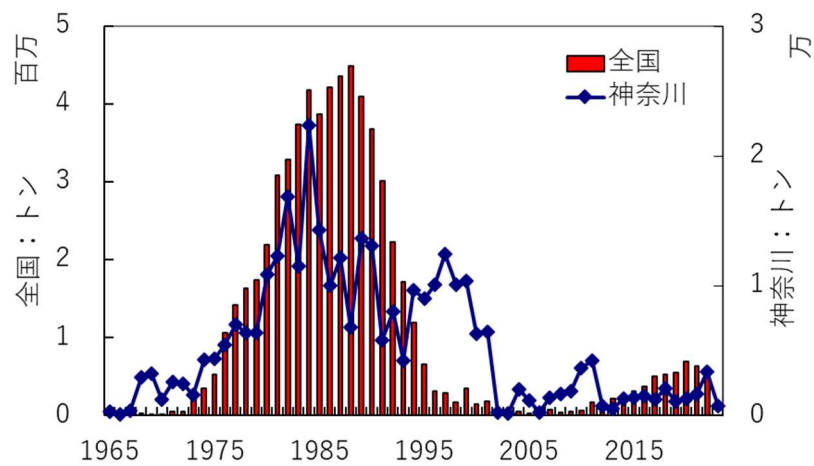


図1. 全国の漁獲量と県の漁獲量のグラフ

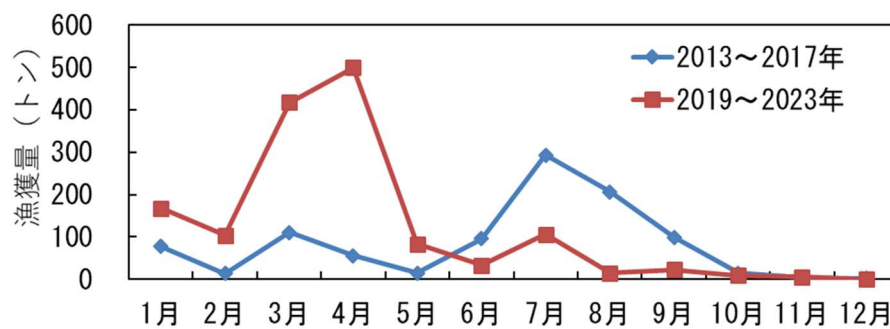


図2. 本県におけるマイワシ月別漁獲量の変化（主要定置網漁獲量から算出）

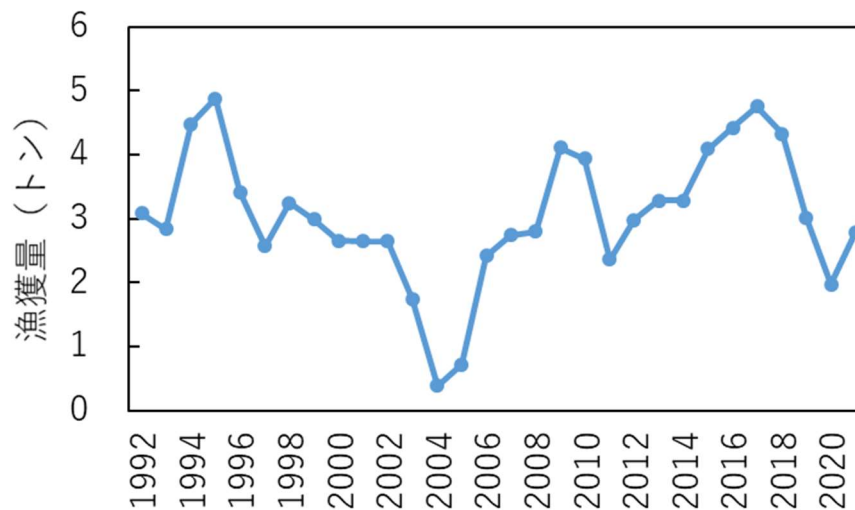


図3. 本県における標本船3隻による3～6月マシラス漁獲量の推移（5年移動平均）

[研究課題名] 本県沿岸域におけるイワシ類の資源研究
 [研究期間] 2021（令和3）年度～2023（令和5）年度
 [研究者担当名] 加藤大棋